

伊豆中央道・修善寺道路に関する説明会

令和5年3月22日
静岡県交通基盤部道路局

いっしょに、未来の地域づくり。New Public Engineering for SHIZUOKA

静岡県交通基盤部

次 第

1 伊豆地域の道路の現状

- (1) 全体
- (2) 伊豆中央道・修善寺道路
- (3) 国道414号 静浦バイパス
- (4) まとめ

2 今後の取組

- (1) 伊豆中央道・修善寺道路
- (2) 国道414号 静浦バイパス
- (3) 生活道路の流入対策
- (4) 伊豆中央道・修善寺道路、静浦バイパスの料金徴収期限
- (5) まとめ

1 伊豆地域の道路の現状

(1) 全体 <渋滞や通行止めの発生>

- 伊豆地域の道路は、慢性的な渋滞、災害による通行止めが発生
- 道路ネットワークは不足しており、機能強化が必要
- 道路整備の費用を要するトンネルや橋などの構造物が多い

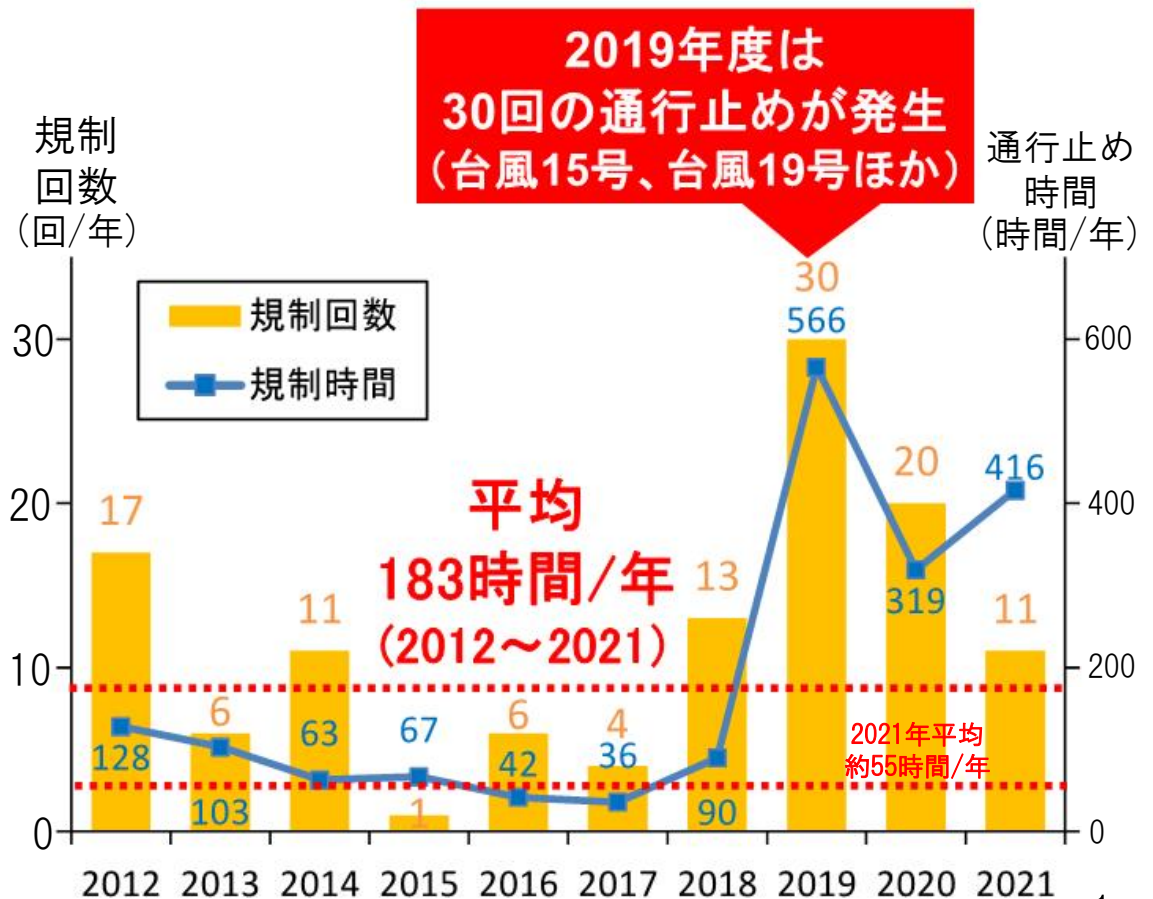
伊豆北部地域における渋滞箇所



出典：静岡県道路交通渋滞対策推進協議会資料

伊豆地域の国道※における通行止め実績

※国道135号、国道136号、国道414号（旧道除く）



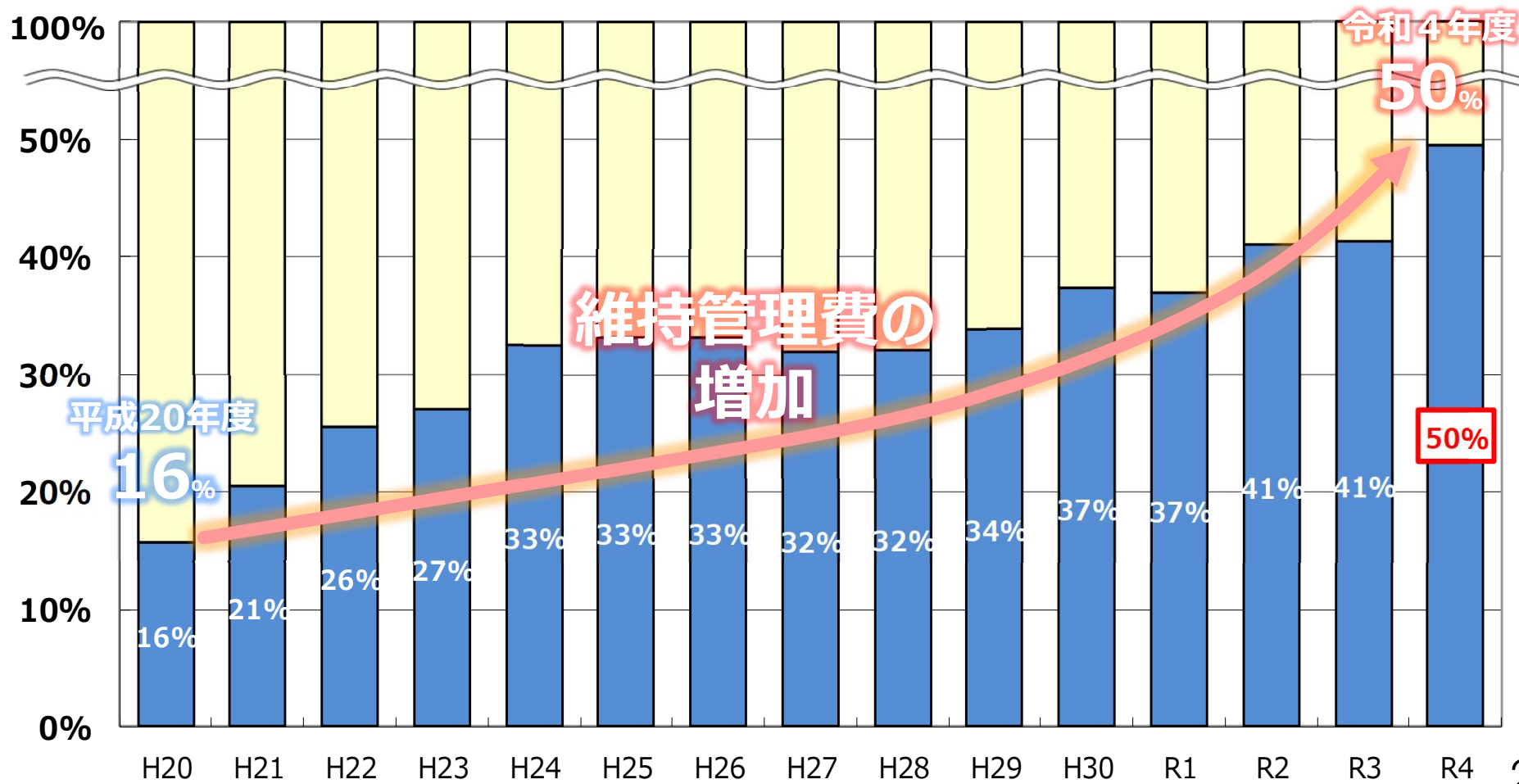
出典：国土交通省HP（沼津河川国道事務所 記者発表資料）（一部加工）

1 伊豆地域の道路の現状

(1) 全体 <道路予算の状況>

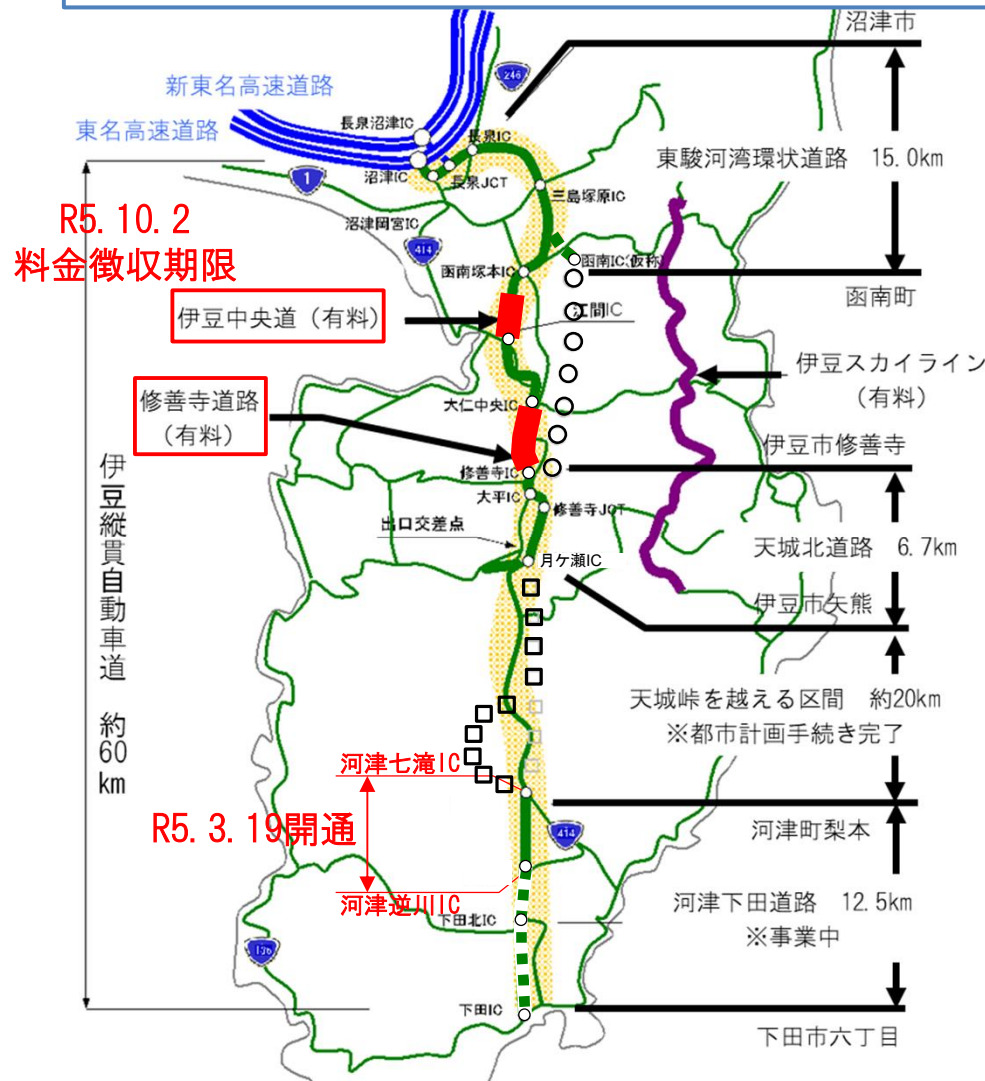
- 道路予算は平成10年度以降減少し、近年はピーク時の約4割
- 維持管理費の割合は年々上昇しており、近年は予算の半分程度
- 道路整備の財源を確保が重要

静岡県道路予算における維持管理費割合の推移

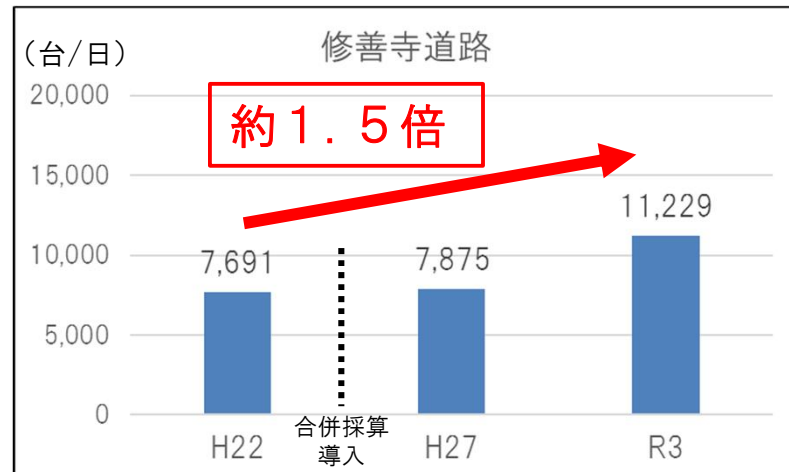
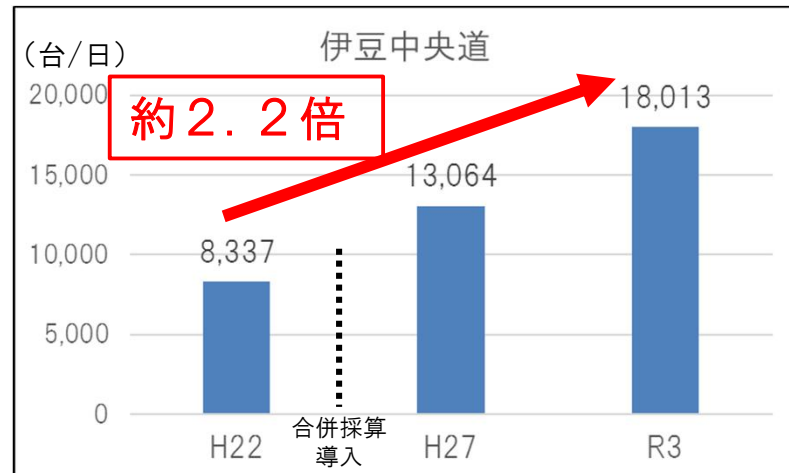


1 伊豆地域の道路の現状 (2) 伊豆中央道・修善寺道路<交通量の変化>

- 伊豆中央道・修善寺道路は、伊豆地域の基幹的な道路としての役割を担う
- 周辺の道路ネットワークの整備により、両道路の交通量は大幅に増加
- 交通量の増加に伴い、各所で渋滞の発生や生活道路へ交通が流入

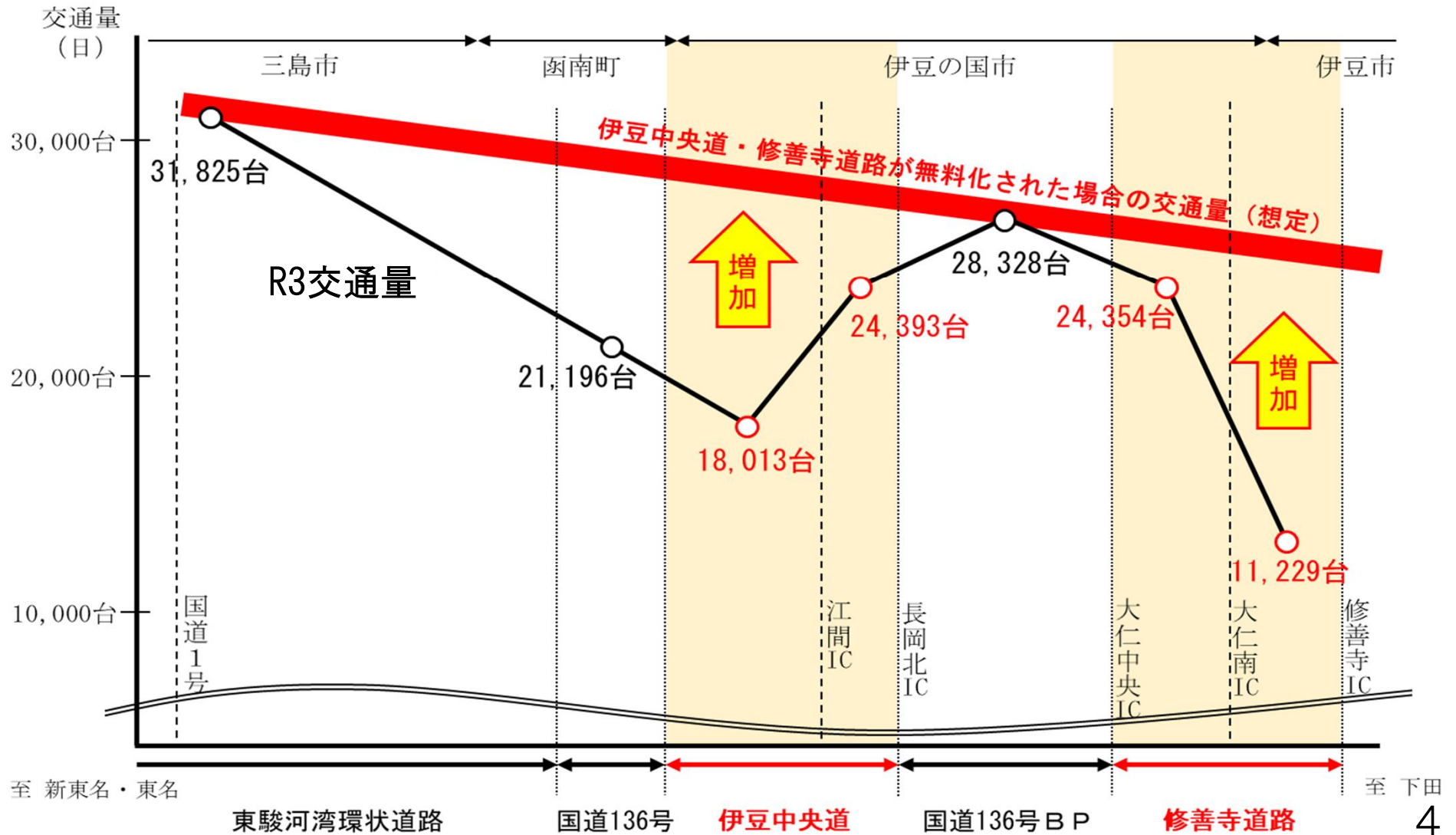


伊豆中央道・修善寺道路の交通量の変化



1 伊豆地域の道路の現状 (2) 伊豆中央道・修善寺道路<無料化した場合の影響>

- 両道路を無料化した場合、交通量が約2倍になり、更に渋滞が悪化
- 引き続き、高速性や定時性などの機能を最大限発揮させていくことが重要



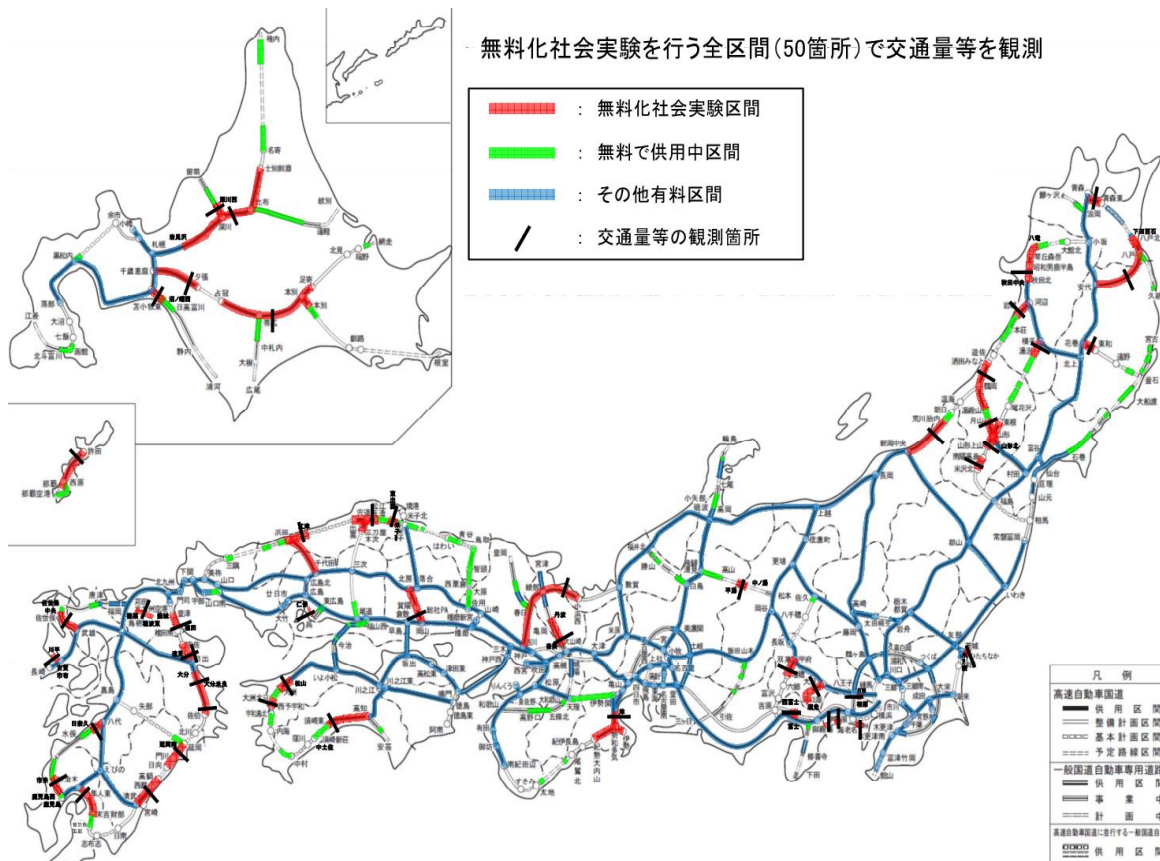
1 伊豆地域の道路の現状 (2) 伊豆中央道・修善寺道路<無料化した場合の影響>

- 高速道路の無料化社会実験では、無料化期間、交通量が約2倍に増加
- 伊豆中央道・修善寺道路においても、同様に交通量が増加（想定）

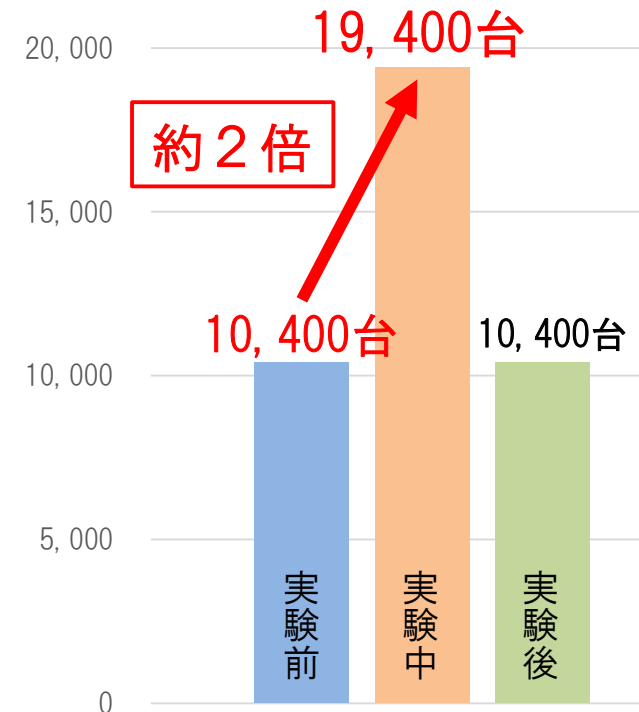
無料化社会実験の観測箇所

実験期間：H22. 6. 28～H23. 6. 20
対象区間：1, 652km

無料化社会実験の平均交通量



(台/日)
25,000



1 伊豆地域の道路の現状 (3) 国道414号 静浦バイパス

- 静浦バイパスは、沼津市と伊豆半島南部をつなぐ重要な道路
- 令和5年3月27日に優先整備区間(下香貫交差点～大平IC)が開通
- 未整備区間(大平IC～長岡北IC)の整備には、多大な費用と時間を要する



1 伊豆地域の道路の現状 (4) まとめ

(1) 全体

- ・ 伊豆地域の道路では、渋滞や災害による通行止めが発生
- ・ 道路予算のうち維持費は約半分、道路整備の財源確保が重要

(2) 伊豆中央道・修善寺道路

- ・ 両道路の交通量が大幅に増加し、各所で渋滞が発生
- ・ 両道路を無料化した場合、更に渋滞が悪化するだけでなく、
渋滞を避けて生活道路へ通過車両が流入することが懸念

(3) 国道414号 静浦バイパス

- ・ 静浦バイパス全線開通に、多大な費用と時間を要する

2 今後の取組 (1) 伊豆中央道・修善寺道路 <料金徴収期限延長>

- 伊豆中央道、修善寺道路は、伊豆地域の基幹道路として、引き続き高速性・定時性を確保するため、令和5年10月2日の料金徴収期限を延長



高速性・定時性の確保

令和5年10月2日⇒ **延長**

2 今後の取組 (1) 伊豆中央道・修善寺道路 <新たな料金施策>

○ 利用者の利便性向上や料金徴収費用の低減のため「ETC」の導入を目指す

<利便性向上・料金徴収費用低減>

内 容		ETCX	ETC
利便性	料金所における 車両速度	一旦停止	徐行
	サービス利用 による事前登録	必要 (登録可能なクレジットカード会社は11社)	不要 ※登録が必要な割引制度あり
費用	料金徴収費用 (人件費)	現時点では、低減が困難 (利用率が低く誤進入があるため、専用 レーンの導入が困難)	低減できる (利用率が高く誤進入がほとんどな いため、専用レーンの導入が可能)

<ETCX>



出典：熊本県道路公社HP

<ETC>

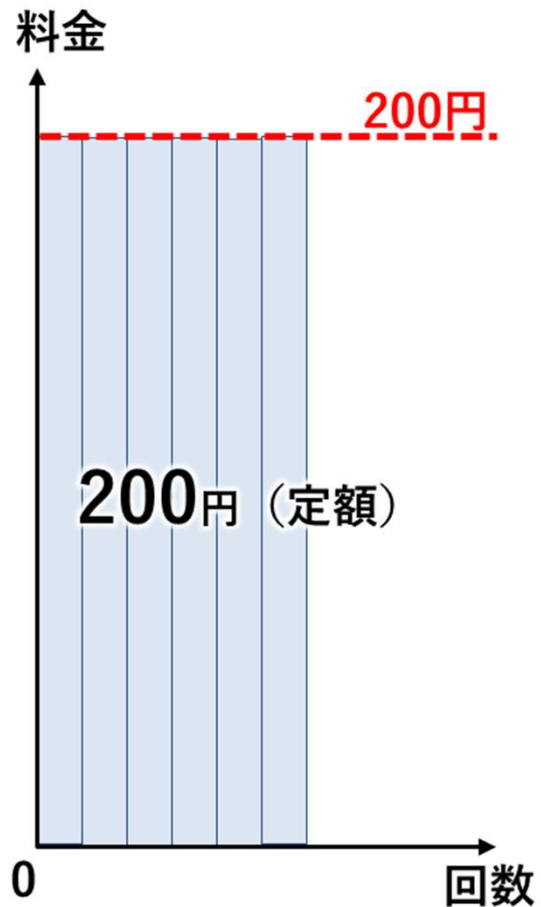


出典：国土交通省HP

2 今後の取組 (1) 伊豆中央道・修善寺道路 <新たな料金施策>

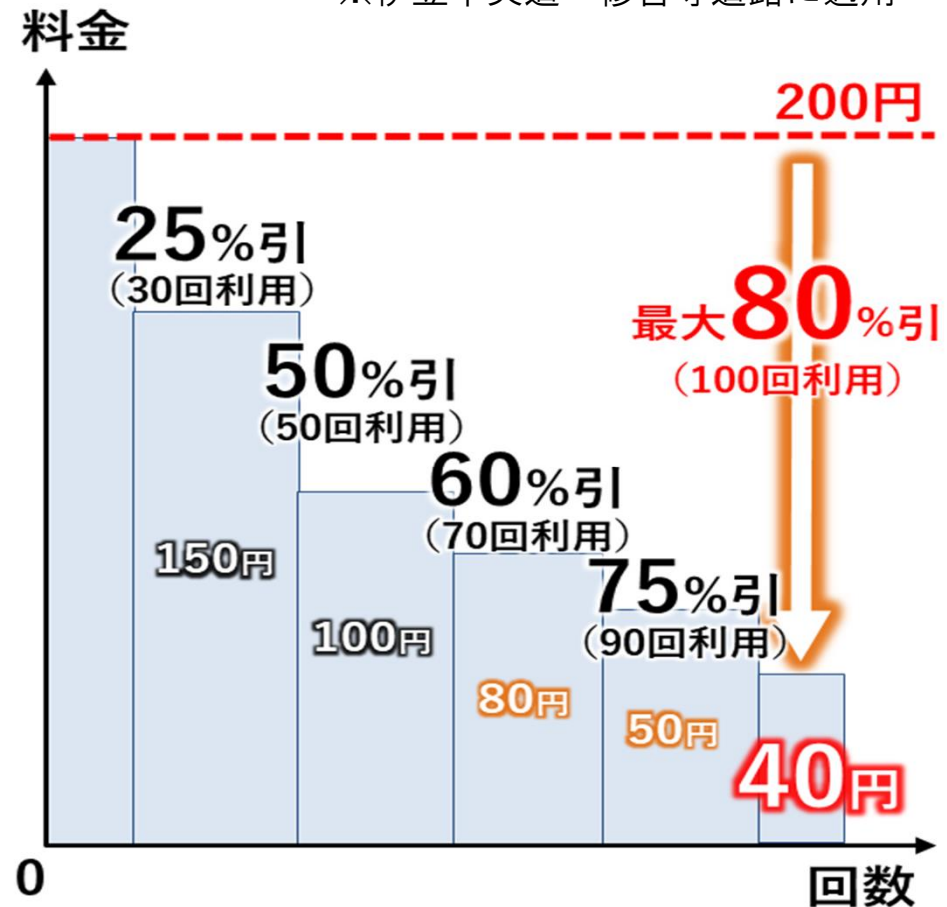
- 両道路を使いやすくするため、ETC X等を活用した新たな割引制度の導入
- 当面、回数券は販売

現金での利用



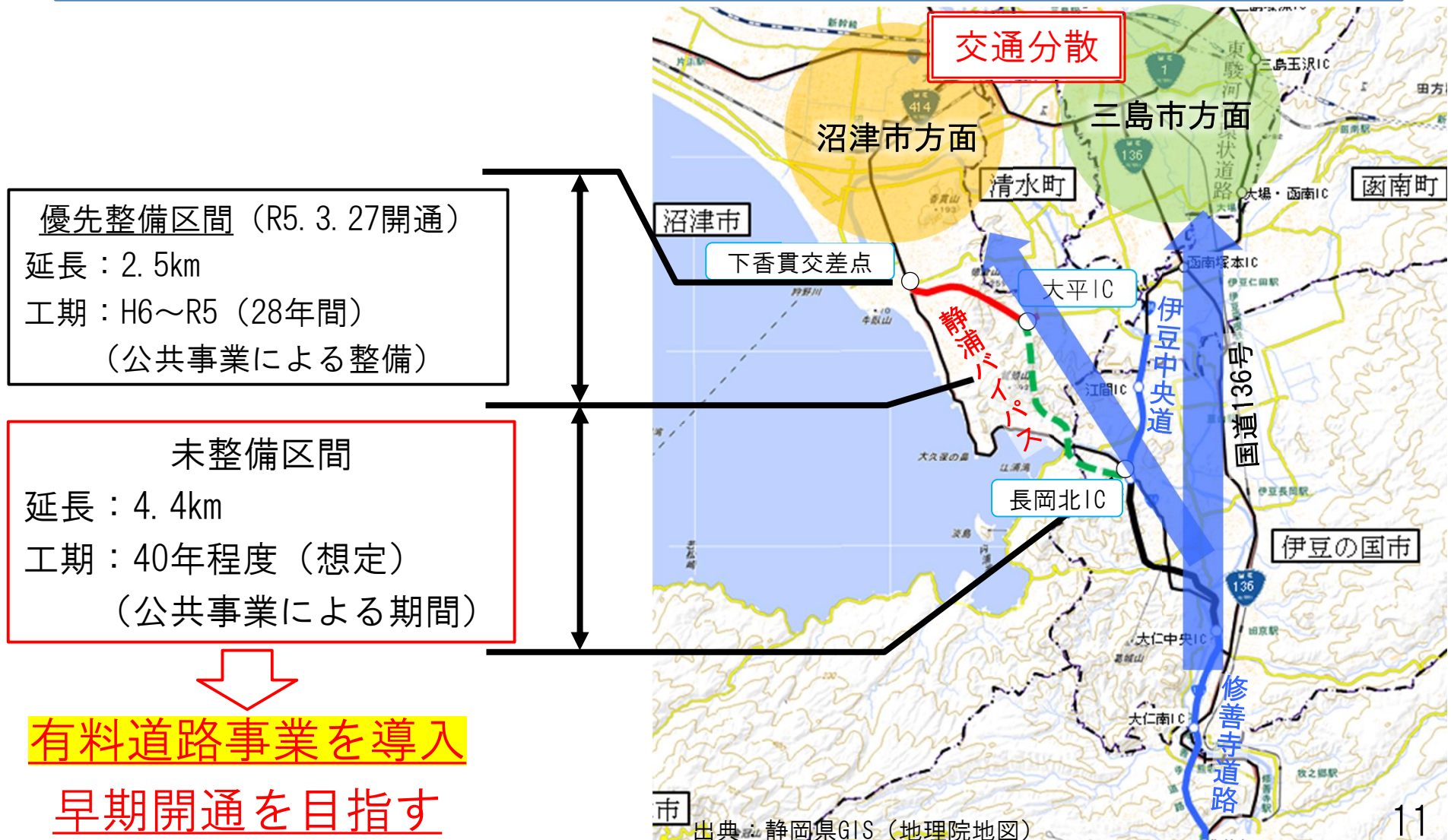
新たな割引制度 (ETC X 又は ETC)

※伊豆中央道・修善寺道路に適用



2 今後の取組 (2) 国道414号 静浦バイパス

- 静浦バイパスを早期に全線開通させるため、未整備区間に有料道路事業導入
- 静浦バイパスは、伊豆中央道や国道136号の交通を分散させ、混雑緩和に寄与



2 今後の取組 (3) 生活道路の流入対策

- 伊豆中央道・修善寺道路の料金徴収期限の延長、静浦バイパスの優先整備区間の開通に伴い、生活道路への流入対策を実施



2 今後の取組(4)伊豆中央道・修善寺道路、静浦バイパスの料金徴収期限

- 有料道路の料金徴収の有無が、本線や周辺道路の交通に大きな影響
- 一方への交通集中を回避するため、伊豆中央道・修善寺道路、静浦バイパスの料金徴収期限を同期間に設定



2 今後の取組 (5) まとめ

- ・ 伊豆中央道・修善寺道路は料金徴収期限を延長
- ・ 両道路の利便性向上のため、ETCと新たな料金制度を導入
- ・ 国道414号 静浦バイパスに有料道路事業を導入
- ・ 生活道路への流入対策を実施
- ・ 伊豆中央道・修善寺道路、静浦バイパスの料金徴収期限を同期間（40年程度）に設定